

令和7(2025)年度
編入学・転入学

経営学専攻
小論文問題
(制限時間 1 時間)

以下の問題から一つ選択し、800 字程度で解答せよ。

1. Chat GPT などの生成系 AI がビジネスに及ぼす影響についての見解及び、AI と人間が共存する未来の企業についてどのように考えるのか。
2. 日本企業がグローバル化することでどのようなメリット・デメリットがあるかについて自動車メーカーを事例として説明しなさい。
3. ウーバーイーツなどの「プラットフォームビジネス」のビジネス・モデルはどのようなものか。また、それは現在、どのような問題を抱えているのか論じなさい。

2025(令和7)年度
札幌大学転入学・編入学試験(2月)
経営学専攻

【小論文テーマ1】

Chat GPT などの生成系 AI がビジネスに及ぼす影響についての見解及び、AI と人間が共存する未来の企業についてどのように考えるのか。

【出題意図】

小論文では、3年次から編入し経営学分野を学ぶ上で必要な基礎学力と情報収集能力をはかるために、「知識・理解」「思考力・判断力・表現力」を問う問題を出題している。また、出題された問題の内容を踏まえ、自分の考えを指定された字数で、論理的に説明できる力があるかを確認するための試験である。

【回答例】

模範解答(800字程度:752字)

AI 時代の到来により、人間に求められるスキルやキャリアも大きく変化していると考えている。

ChatGPT が登場してから、生成 AI の市場規模は飛躍的に拡大し、現在では、世界で 4 兆円に、2030 年にはその 5 倍になるともいわれている。なぜなら、データの数値分析や不良品の検知といった特定の業務プロセスに有効な従来の識別系 AI に対し、生成 AI はさまざまなビジネス領域で活用できると考えられているからである。自然な言葉を使って指示できることが最大の特長である生成 AI は、あらゆる事務業務や現場作業に活用できると期待され、人材不足の解決手段として注目されている。

また、生成 AI を本格的に導入している企業では、生成 AI によって年間の総労働時間のうち約 20% の削減が可能となり、削減した時間を、顧客への対応の強化や、新商品の開発、ワークライフバランスの向上に充てることが可能であると予測している。以上のように、生成 AI は従来のビジネススタイルを大きく変革する万能なツールとして期待されており、さまざまなビジネスにおいて積極的な導入が進んでいる。

生成 AI が普及するにつれ、AI やロボット向きの仕事から置き換えが進むといわれているが、新しい技術の導入に抵抗がなく、高齢化社会が進む我が国にとって、このような動きは必要かもしれない。一方で、失業者が増える可能性も否定できないため、受け入れが進まない可能性もある。生成 AI が幅広い分野で活躍するようになることで、人間の仕事の役割が大きく変わる可能性がある。これにより、雇用の形態が変化し、人間は AI と共存しながら新たな仕事を生み出す必要が生じる。社会は AI の力を活用しつつ、人間にしかできない創造的な仕事や感情的な支援が求められる時代へと移行するだろう。人間と AI

のそれぞれの強みをいかに発揮しているのかが今後の課題と考える。

【小論文テーマ2】

日本企業がグローバル化することでどのようなメリット・デメリットがあるかについて自動車メーカーを事例として説明しなさい。

【出題意図】

小論文では、3年次から編入し経営学分野を学ぶ上で必要な基礎学力と情報収集能力をはかるために、「知識・理解」「思考力・判断力・表現力」を問う問題を出題している。また、出題された問題の内容を踏まえ、自分の考えを指定された字数で、論理的に説明できる力があるかを確認するための試験である。

【回答例】

模範解答(800字程度:752字)

日本の自動車メーカーは、これまで国内で培ってきた技術力と品質管理のノウハウを活かしながら、海外市場への進出を加速させることで、グローバル市場での競争力を維持・強化していくことが期待されている

自働車の市場拡大において、日本の自動車メーカーでありながら、海外へ進出し、現地の自動車メーカーのようになる、という戦略がとられてきた。この方法だと、現地法人が車を作るため、会社運営は現地法制に従うことになるが、国同士の交渉で自動車の関税が上がって販売に支障をきたすといった影響もないため、自動車メーカーにとってのメリットと考えることができる。また、現地工場のある地域の税収が増え、雇用も増え、その会社と取引のある会社も潤うという好循環を生み出していくこともメリットである。

その一方で、海外市場は日本とは異なる文化や消費者ニーズを持っているため、現地市場の理解が不足していると、期待通りの成果を上げることができない。現地の法律や規制、文化的背景を無視した製品やサービス展開は、失敗の原因となることが多い。また、海外に拠点を設立したり、現地法人を運営したりするためには、多額の投資が必要であり、為替リスクや関税、現地の賃金の高騰など、コスト管理が難しい場合もある。さらに、多言語を話せる人材や、異文化理解に優れた人材が不可欠だが、多くの日本企業は、こうしたグローバル人材が不足している現状に直面している。

日本企業がグローバル化することによって、新たな市場での成長機会を得られる一方、現地市場の理解不足や人材不足といった課題にも直面する可能性があり、特に、異文化対応や現地のビジネス慣習を理解したグローバル人材の採用が、今後の課題といえる。AI時代の到来により、人間に求められるスキルやキャリアも大きく変化していると考えられる。

【小論文テーマ3】

ウーバーイーツなどの「プラットフォームビジネス」のビジネス・モデルはどのようなものか。また、それは現在、どのような問題を抱えているのか論じなさい。

【出題意図】

小論文では、3年次から編入し経営学分野を学ぶ上で必要な基礎学力と情報収集能力をはかるために、「知識・理解」「思考力・判断力・表現力」を問う問題を出題している。また、出題された問題の内容を踏まえ、自分の考えを指定された字数で、論理的に説明できる力があるかを確認するための試験である。

【回答例】

模範解答(800字程度:774字)

プラットフォームビジネスとは、インターネット上でサービスや商品の提供者とユーザーを結びつける場を提供するビジネス・モデルである。例えば、企業の広告デザインを発注する場合、多くのデザイナーが登録されているプラットフォームがあれば、企業は条件にマッチする人を探しやすくなり、デザイナーもプラットフォームに登録することで、仕事を効率的に受注できるようになります。このように、プラットフォームビジネスは双方が効率的に取引できる環境を提供し、利便性を向上させるとともに、従来の商取引にはなかった新たな仕組みを築いてきた。フリマサイトである「メルカリ」や、農家からの産地直送からお取り寄せできる通販「食べチョク」は、TVCMによって大きく利用客を増やしている。このように、プラットフォームビジネスへの参入により、企業は事業価値向上と利益拡大の双方を実現できる可能性がある。

一度商品を購入したり、サービスを利用して満足した顧客が SNS を通じて別の顧客を呼んでくれたりして、クチコミ効果もメリットといえる。に顧客を増やし、ファンを育てられるという点でも、プラットフォームビジネスは魅力的だと評価できる。

プラットフォームビジネスは、ネットワーク効果が強みであるといえる。ネットワーク効果は利用者が増えることが前提となるが、その利用者を増やすには、集客対策が重要である。そのため、かなりの集客コストが必要となることも課題の1つである。

その一方で、プラットフォームビジネスの参入初期は集客に苦勞する傾向にある。ユーザーが少ない状態のため、商品やサービスの提供者もプラットフォームに価値を感じない。

また、取引される商品やサービスの質を運営者ですべて管理することが難しいため、プラットフォーム上ではユーザー間のトラブルが発生する場合があります、プラットフォームビジネスのデメリットである。